

中津川市

川上流路工の再整備完了

砂防えん堤増設、橋を架け替え

恵那山麓にたたずみ、恵那社の入り口にも位置する中津川市川上地区を流れ

る中津川に、複数の砂防えん堤や床固工などからなる砂防施設「川上流路工」が



架け替えた宮前橋をはじめ、新たな砂防えん堤や護岸工などを整備した現場の前で完成を祝う関係者＝中津川市中津川

整備された。

川上地区は急峻な谷の地形で、過去にも度々豪雨被害が発生している地点。下流域には市役所や市街地、各企業の生産拠点、国道19号やJR中央線など物流網が広がる。

川上流路工は、豪雨時に土砂や流木などを含む激流を安全に下流へ送り出すために1960～70年代に整備された。今回は施設老朽化を受け、2008年度から昨年度までの間、砂防施設の増設や宮前橋の架け替えなどを実施。砂防えん堤2基、床固工13基などからなる延長1496mの流路工に機能強化された。事業費は約22億円。

多治見砂防国道事務所が行った完成式には国や県、

市、工事を担当した中島工務店(同市加子母)、地元の関係者ら計37人が出席。同事務所の森下淳所長があいさつしたほか、来賓の古屋圭司衆議院議員らが祝辞を述べ、整備を祝った。

(宮樫一平)



大規模な改築を終えた川上流路工。手前の段差が砂防堰堤、中央の宮前橋の奥にいくつか見える段差が床固工＝中津川市で(多治見砂防国道事務所提供)

中津川の砂防施設

「川上流路工」の

大規模改築完了

恵那山を源流とし、中津川市内を流れる中津川の砂防施設「川上流路工」が、国土交通省による大規模な改築を終えた。6月29日に同市の川上地区で記念式典があり、地元関係者たちが防災機能の強化を喜んだ。

(小佐野慧太)

防災機能強化へ堰堤など増設

同流路工は、歴史的に中津川の氾らん悩まされてきた川上地区や下流の市街地の水害防止を目的として1964～71年に整備。川の流れを緩やかにする床固工12基、砂防堰堤(砂防ダ

ム)1基を備える延長1250㍎の砂防施設として防災機能を発揮してきたが、豪雨時の激流などで傷みが進行し、2008年に改築に着手した。

今回の改築では、砂防堰堤と床固工を新たに1基ずつ増やし、延長は1496㍎となった。さらに市と連携し、地区住民の多くが利用する宮前橋を、激流に強い構造の橋にかけ替えた。

事業費は約22億円。

国土省多治見砂防国道事務所の森下淳所長は式典で「土砂や流木などを含む濁流をより安全に流れさせることができる。下流の砂防施設と一体となり、川上地区だけでなく市街地の安全安心にも資する」と事業の意義を語った。

式典では、川上地区に伝わる恵那文楽の上演などもあった。